

# 若者に環境問題の「気づき」を 写真やファッションで情報発信 「かんきょう文化祭」で啓発

## かんきょうデザインプロジェクト

さまざまな要素が絡み、関心を持つことが難しいと言われている環境問題も、気づきさえあれば、人々の無関心を関心へと導くことができる。そんなコンセプトで若者向け環境啓発活動が続けられている。「かんきょうデザインプロジェクト」（横浜市中区）主催による「かんきょう文化祭」だ。フォトコンテスト、リメイクファッションショー、かんきょうコンサートの三つを柱に、資源循環のプロセスなどを体験しながら、成果を披露してもらう。同プロジェクトの武松昭男さんに、このイベントに込めた思いなどについて話を伺った。

### 組写作品で自由に表現を

武松さんは、横浜市資源リサイクル事業協同組合で、小学生を対象にした「環境絵日記」にかかわってきた。子どもが作品を一つ出せば、父母、祖父母と環境に関する会話が生まれ、展示会場に見に来て、われわれの業界にも目を向けてくれるというのが、その目的だ。

環境について考える機会は、小学校では授業でも取り上げられ、少なくないが、中学・高校生になると減ってしまう。



若い感性が光る写真が並ぶ組写フォトコンテストの会場



私たちが奪ったもの。それは夜空に浮かぶ自然の光。代わりに、色とりどりの人工的な光を手に入れました。どちらも同じ、夜に輝く綺麗な光です。しかし後者は大量の電力を消費して得られる美しさです。電力の大量消費は地球温暖化を加速させる原因の一つだと知っていますか？日常生活やエンターテインメント問わず、電力の大量消費は避けることができません。環境のためを思うなら、娯楽のために電力を使用するのはやめた方がいい。けれど娯楽のために消費される電力が絶対的に悪だとも限りません。そんな矛盾の中、環境のためを思い、近年ではソーラー発電等を利用したエコな発電方法も増えているのです。最後に、この写真を綺麗だと思ってくれたあなたへ。害になるものを全て無くすことはとても難しい。それならどうか、ソーラー発電のような、少しでも地球のためになるやり方を考えてみませんか。

大学生や大人になるとまた増えるが、中学・高校生は受験時期も絡んで、すっぱり抜けてしまう年代だ。そこで考えたのが、中高生のためのかんきょう「組写」フォトコンテスト」だった。

2010年、活動のためのグループを立ち上げ、最初は高校生が対象だったが、後に中学生に広げた。

地球環境や3Rをテーマに、45文字以内のタイトルを添えた組み写真や400文字以内の文章を添えた単写真でストーリーをつくるというもの。技術を競う写真コンテストは多数あるなかで、こちらは面白さを大切にする内容だ。「自分が気づいた課題を、若者ならではの視点で切り取り、自由に表現してほしい」という思いを込めている。

例えば、みなとみらいの観覧車のきらびやかな人工的な明かりと、鎌倉のお寺の石畳に差す自然の光を組み合わせた写真では、どちらもきれいだが、私たちは大切なものを失ってはいないだろうか、と問うメッセージが添えられていた。

ルービックキューブの一部が崩れ、木が写っている写真では、自然環境にしろ、生活環境にしろ、守れるのは人間だとの主張を込めている。

一次選考を通過した「組写」部門と「メッセージ」部門の作品が2日間展示され、会場を訪れた一般市民が投票する。中・高校生のさまざまな視点や感性の作品に触れることで、観覧者が環境についてあらためて考え直す機会になっている。2日目の投票終了後に開票・集計作業を行うため、毎回、ハラハラドキドキの表彰式になる。

また、単にコンテストを実施するだけでなく、廃棄物処理場などの現場ツアーのほか、食品リサイクルやエネルギーの地産地消を考えるセミナーを開くなど、資源循環に対する意識を高める機会も設けてきた。

## 素材を生かしリメイク

リメイクファッションショーでは、前段階として、ショーに参加する、デザイン専門学校生や高校の家庭部・ファッション部の生徒たちと一緒に、繊維リサイクル会社の古着工場へのツアーを実施。古着を見せてもらいながら、リメイク、アップサイクルへのイメージを高めてもらっている。



古着をリメイクした作品が並ぶ会場

古着の柄を生かして出来上がった作品は、アイデアと工夫にあふれ、組み合わせる素材の一つ一つにストーリーがある。素材にどんな思い出があったのか、思いをはせることで、作品の味わいがぐっと増す。

ファッションショーでは、制作者本人や子どもたちがランウェイを凜とした姿勢で歩くと、古着からよみがえった服がより華やかに感じられ、会場が一体となって盛り上がる。2023年は92歳女性からの応募もあった。



リメイクファッションショーに出場する制作者

かんきょうコンサートでは、個性ある楽曲やMCを通して、一人一人が環境の課題に対し、何ができるかを会場にいる人と一緒になって考える時間となっている。

アップサイクル広場では、不要になった製品にアイデアやデザインをプラスし、新たな付加価値を持たせて再利用するワークショップが展開されている。

## 変化を起こす主体者に

武松さんは「このイベントは、組織を組んで、年々拡大を続けなければいけないとは考えていない」と話す。1回1回、その都度、協力してくれる人に声を掛けて、集まってもらっているという。



工夫を凝らした作品が目立ったアップサイクル広場



会場の人と一体となった「かんきょうコンサート」

「若い人が環境に大事なものは何かを考えるとともに、変化を起こす主体者になってほしい。この文化祭が何らかの行動につながるきっかけになれば」と武松さんは積極的な参加を呼び掛ける。

次回のかんきょう文化祭は、2025年3月22、23の両日、みなとみらい駅の「みらいチューブ」で開催の予定で、フォトコンテストの作品は11月から募集する。

かんきょうデザインプロジェクトに関するお問い合わせはこちらまで  
事務局: 武松事業デザイン工房株式会社内  
HP: <https://kankyo-design.org/>  
〒231-0023 横浜市中区山下町86-1-404  
TEL/080-6665-4376 FAX/045-681-7554  
Email/[info@kankyo-design.org](mailto:info@kankyo-design.org)

この記事は、横浜グリーン購入ネットワークの会員対象SDGs活動支援プロジェクトによって作成されました。

内容についてのお問合せ:

横浜グリーン購入ネットワーク事務局

E-mail:[mail.yokohamagpn@gmail.com](mailto:mail.yokohamagpn@gmail.com)

<http://www.y-gpn.org/>